令和８年７月２８日

加西市議会議長　中右憲利　様

清流会・かさいを育む会
幹事長　　森元　清蔵

調査研究実施報告書

下記のとおり行政視察研修を行いましたので、報告いたします。

記

１．調査年月日　令和８年７月６日（月）～７月８日（水）
２．視 察 先　　北海道北斗市、函館市、苫小牧市
３．出 席 者　　佐伯欣子・森田博美・森元清蔵・下江一将・橋本真由美
４．視察内容等

◇北海道北斗市 社会福祉法人「侑愛会」　７月６日（月）１４：００～１６：００

（視察項目）　障がい者支援の取り組みについて
（視察対応者）社会福祉法人「侑愛会」　　中野副理事長
おしま菌床きのこセンター　　木口施設長
星が丘寮　　兒玉園長
サポートすばる　　林　所長
（視察内容）　別紙

◇北海道函館市　　７月７日（火）１０：００～１１：３０

（視察項目）　　スマホ市役所について
（視察対応者）　企画部地域デジタル課　　加藤課長、松林主査、西川主任、
議会事務局　　中村次長
（視察内容）　別紙

◇北海道苫小牧市　７月８日（水）１０：００～１１：３０

（視察項目）　　福祉トイレカー(とまレット）について
（視察対応者）　健康福祉部障がい福祉課　　上林課長、猿田課長補佐、渡辺主査
志村主事
議会事務局　　小西次長
（視察内容）　別紙

５．所感 (別紙)
６．添付資料
① 視察行程表
② 研修資料
③ 写真

（視察内容）

北海道北斗市 社会福祉法人「侑愛会」

【 視察項目 】　障がい者支援の取り組みについて
【　目　的　】　障がい者が各人の力に応じて豊かに暮らしている施設運営について学ぶ
【　内　容　】

★社会福祉法人「侑愛会」　1963.6 設立

障がい者支援 、児童発達支援 、教育・医療・地域生活支援を、多機能にわたって展開する社会福祉法人

理念…「あなたが安心して豊かに暮らせる社会を創る。インクルーシブな私たちの街を実現する。」
“ゆうあい”を利用される方から学び、ひとりひとりが必要とするサポートの実践を通して、誰もが安心して豊かに暮らせる社会の実現を目指します。
私たちは利用される方々を支え、地域社会を支え、そして逆に、利用される方々や地域から支えられる仕組みを創りだしていきます。

使命…あなたの声に耳をかたむけ、あなたの想いにこたえる

姿勢…聴く、学ぶ、創る、繋ぐ

★おしま菌床きのこセンター（多機能型事業所）

・バイオ技術と企業的合理性を導入し、培地製造からハウス栽培、市場出荷までの一貫生産。
・おしまコロニー成人各施設と業務提携し、利用する方々がひとりの生産者として働き、その活動を通して、働くことの喜びと責任を体得する福祉的就労の場。
・定員… 60 名（生活介護 50 名、 就労継続支援 B 型 10 名）
・利用者の体力や障がい特性に合わせて適材適所の仕事配置。
・労働意欲を引き出し、平均工賃月約 22,000 円。
・地域就労を見据えた基本的生活習慣の支援。
・しいたけの出荷量全道 2 位。年間 220 トン、17 トン/日の生しいたけを生産。

★星が丘寮　（障害者支援施設）　1988 年開設

・知的障害の伴った自閉症の人たちが多く利用。定員 60 名
・24 時間、365 日のアセスメントを中心にした個別支援を展開し、暮らし全般をトータルで支えるシステム。
・ひとりでできる事を通して自発性を高め、一人一人の生活スタイルを獲得する。
・日中活動は、働くことを中心にし、休日は本人が楽しめる内容で地域資源を活用し社会参加。

★サポートすばる（グループホーム）

・定員 21 名（全員が知的障害・自閉症）、24H×365 日サポート体制
・大切にしていること
　・自立とサポートのバランス　　自立 ＝ 本人の力 ＋ 支援（人・モノ）
　・支援をあらかじめ置いておく
　・暮らしの質を考える　　暮らしの質＝本人の力× 支援× 周囲の理解

北海道函館市

【　視察項目　】 スマホ市役所について
【　　目的　　】 オンライン手続きの拡充による住民サービスの向上と、行政事務の効率化の取り組みを学ぶ
【　　内容　　】

函館市スマホ市役所

１．導入の背景と目的

● **課題と経緯**: 2022 年 9 月に広報媒体として市公式 LINE の運用を開始。同年 11 月の市民アンケートで「手続きが面倒だから LINE でできないか」という声が多く寄せられたことを受け、オンライン手続きの拡充を決定した。

● **ビジョンの策定**: 2024 年 3 月に「函館市デジタル変革推進ビジョン」を策定し、市民サービスのさらなる拡充を目指す。

● **リニューアル**: 2024 年 1 月、税証明書の請求申請など約 10 の手続きを可能にするリニューアルを実施。

２．具体的な施策と利用状況

● **情報発信・入手**: 市のお知らせ、災害・防犯情報、イベント情報のほか、市電の運行情報や消防出動情報など、市民が希望する内容を選択して受信できる。また、会話形式で知りたい情報を調べられるメニューを導入している。

● **オンライン手続き（子育て支援）**： 出産・子育て応援給付金や産後ケア、乳幼児健診の予約など、多岐にわたる手続きが LINE 上で完結する。

● **UX の追求（マザサポ＋）**： 赤ちゃんを抱えながら「片手でタップ操作のみ」で手続きが完了するよう、事前登録情報からの自動入力機能を備えている。また、子の月齢に応じた必要な情報をプッシュ通知で配信している。

● **高齢者へのサポート**: スマホ操作に不安がある層に対し、スーパーや地域交流センター などで「スマホの相談窓口」を定期的に開設し、サポート体制を整えている。

３．システム・運用体制とコスト

● **開発手法**: Bot Express 社の「GovTech Express」を採用。ノーコードツールのため、職員自らがメニューデザインやオンライン手続きの質問設計を素早く柔軟に行うことができる。

● **推進体制**: 地域デジタル課（3 名）を中心に、各部局から選出された約 10 名の「LINE リーダー」が研修を受け、自ら手続きを作成・改善できる体制を構築している。

● **コスト**:初期導入費用（令和 5 年度）：1,320,000 円（システム利用料、公的個人認証利用料など）。維持管理コスト（令和 8 年度見込）： 5,164,000 円。

４．成果と今後の課題

● **利便性と効率化の成果**:

・自動入力の活用により、平均手続き時間は 50%以上減少、入力文字数は 80%以上減少した。
・産後ケア利用申請では、ほぼ 100%が LINE 経由での申請となっている。
・市民側は郵送や窓口へ行く手間が省け、職員側も窓口対応や記載漏れ確認の時間が削減されるなど、双方にメリットが出ている。
・従来の紙ベースの事務フローを変えずにオンライン化を実現している。

● **今後の展望**: 特定の担当者に依存することなく、職員研修を通じてノーコードで構築・改善できるスキルを組織全体に醸成することを目指している。

北海道苫小牧市

【 視察項目 】 福祉トイレカー(とまレット) について

【 目 的 】 福祉トイレカーの特色と利用状況を学ぶ

【 内 容 】

福祉トイレカー

１．**概要** ①障がい者を中心とした車椅子ユーザーの社会参加の促進を主目的に、苫小牧市の公用車として整備（現在は、運営は委託）
②主に苫小牧市内で実施される祭りなど、多くの人で賑わうイベントへ出動

２．特徴

①小回りが利くサイズ(貨物自動車ベース) ②バイオトイレ搭載(衛生面、環境面等に優れる)
③車椅子ユーザーの利便に配慮し、十分なスペースと設備を確保

３．車両

①納車日 2016 年 12 月
②車両価格 約 1,860 万円 ③全長 約 5.4m ④全高 約 2.9m ⑤全幅 約 1.9m

４．事業背景

①関係団体からの要望…障がい者団体から、各種イベント等に利用できる障がい者用多目的トイレ不足の指摘
②市の課題…各種イベント等について、それぞれ開催場所が異なることや土地の確保等、様々な課題がある
③.解決策として…福祉トイレカー事業の導入
④事業の特徴…福祉トイレカー事業は、今までにない機能を備え、様々な場面・場所でのバリアフリーの推進を図ることが可能
⑤対費用効果

【福祉トイレカー】製作費：約 1,860 万円
○：場面・場所を選ばず運用が可能
×：前例がなく、課題等が予測しがたい

【多目的トイレの設置】設置費：約 1,200 万円
○：コストに優れている
×：土地の確保、衛生管理、立地場所の選定

【仮設多目的トイのレンタル】年間：約 750 万円(1 日 15 万円)
○：所有しないため、管理費が発生しない
×：イベント等での利用限定、都度スペースが必要

５．期待される効果…障がいのある人等の活動範囲を拡大
様々な場面・場所での利用(祭り、グルメ、音楽、スポーツ、災害時)

６．福祉トイレカーの特徴

【外観】小型貨物車程度のサイズ…小回りが利くので、場面・場所を選ばずに運用が可能
【安全面】安定性の高いリフト装置…耐荷重性能は約 300 kg。安定感が高く、振動も少ない
【内装】広々したスペースと清潔感…車いすユーザーの利用を前提としたゆとりのあるスペース
衛生機能と耐久性に優れた素材を使用し、清潔感を確保
【トイレ】バイオトイレを搭載…メンテナンスと環境性能に優れたバイオトイレを採用
通常の仮設トイレと異なり、汲み取り処理が不要
水を使用しないため、冬場の凍結リスクが低い
【機能】室内装備…大人のおむつ交換にも対応のできる折り畳み式ベッド、エアコン
その他各種装備…発電機、蓄電池、太陽光パネル、様々な場面・場所での運用が可能

７．利用状況

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
出動回数	4	34	48	37	0	5	23	29	27	25
利用人数	282	1,892	1747	1359	0	18	287	453	458	397

所感　　森元　清蔵

【北海道北斗市 社会福祉法人「侑愛会」】障がい者支援の取り組みについて

障がい者が、一人ひとりの力に応じた支援を受けながら、いきいきと生活されているのに感動した。

おしま菌床きのこセンターでは、自分に合った作業に従事し、その作業ではプロ並みの仕事をされていて、皆さん明るく楽しそうに仕事をされていた。

星が丘寮では、利用者（障がい者）の特性、機能レベルやコミュニケーションレベル等を把握した上で、一人ひとりの学習スタイルに応じて分かりやすく情報を提示するなど、お互いに理解しあえる方法を構築されている。このように障がい者の特性の丁寧な把握があってこそ、一人ひとりに合った支援ができると思う。ここでコミュニケーションスキルを身に着けて、次のグループホーム（サポートすばる）へ移ってグループ生活をされている。

サポートすばるでは、個室で、その人に合ったコミュニケーション方法で毎日の行動をプログラム化し、誰の指示も受けずに行動して生活されている。自立とは、本人の力と不足部分は他の人・モノの支援で実現するという考えで支援がされているのがすばらしい。この施設のいろんなスペースには、あらかじめ支援のモノが置かれていて、必要な人はそれを利用して暮らしを豊かにしていっている。各人の行動の結果は、支援者が毎日目を通されていて、その人の力の変化に応じて支援やプログラムを、その人と確認しながら変えていかれている。

この障がい者支援の素晴らしい取り組みを、加西市の全ての障がい者支援施設に紹介し、反映していけたらと思う。

【北海道函館市】　　スマホ市役所について

オンライン化による子育て支援の内容が充実している。特に親子情報を事前に登録しておくとそれによって自動入力ができ、片手のタップ操作で申請手続きができたり、毎月 1 日にその人に合ったお知らせが届くので必要な時に必要な情報を得ることができている。

子育て期はいろんな申請手続や健診があるので、加西市でも是非この「マザサポ＋」の手法を取り入れてもらいたい。

「便利より、優しさを届ける。ひとりひとりに、そっと寄りそう。人にやさしい行政」を追及されているのがすばらしい。

【北海道苫小牧市】　　福祉トイレカー（とまレット）について

障がい者の社会参加の促進のためにトイレカーが導入され、障がいのある方の活動範囲が拡大されている。車内は、車いすユーザーの利用を前提に介助者が同時に入室できる広さに作られていて、高い評価がえられているとのこと。

バイオトイレは匂いが全く無く、汲み取り処理が不要でいいと思うが、少しメンテナンスが難しそうである。

加西市のトイレカーは、災害時だけでなく、平時において各種イベントにも利用できるようしていけたらと思う。特に障がい者の社会参加促進のための利用も必要である。

所感　　佐伯欣子

【北海道北斗市 社会福祉法人「侑愛会」】障がい者支援の取り組みについて

社会福祉法人「侑愛会」は、小さな保育園から始まり、60 年の歴史がある。障がい者支援、児童発達支援、教育、医療、地域生活支援を多機能にわたって展開され、今では 1,000 人程の利用者がおられる。「私たちの法人は地域の中核となっている」という副理事長の言葉には、地域への使命感を強く感じた。

特に、おしま菌床きのこセンターは、収穫 1 トンの生しいたけを生産する現場で利用者と支援職員あわせて 140 名以上の方が働かれている。利用者は「適材適所」、そして全員「仕事仲間」である。そして、グループホームの一つ『サポートすばる』は、「見える化」「わかる化」をベースに支援をあらかじめ置いておくという考え方で、様々な工夫がされている。それは、本人の力と支援と周囲の理解で暮らしの質を考えるというものだ。ここまで自立とサポートのバランスを取られていることに驚きだった。今後の課題は、行政とつながりながら地域の課題に取り組んでいくことであり、働く皆さんが共有をされている。「侑愛会」の思いは『大切にすること』。深い愛情が込められている。素晴らしい法人だった。

【北海道函館市】スマホ市役所について

一番に、これは！と感じたことは、オンライン化による子育て支援として、赤ちゃんを抱えながら片手で完結できるオンライン手続きの実現だろう。また、その手続きを LINE で行う仕組みを作ったことだ。成果は、市民の利便性のみならず、LINE の手続きを国、県の PDF におとせるといった職員の手間を変えずに手続きのオンライン化が実現していることだ。今後の課題は、特定の担当者に依存しないよう、職員研修等を通じてノーコードで構築・改善できるスキルを組織全体に醸成することを目指されるという。

最後に、市民サービスはもとより、各部署の現場負担を減らすことを考え、熱意でチャレンジをしていったことが上手くいった要因だという担当者の言葉に、自市のことを思い出した。『庁内の職員の先には市民、住民がいるのだというシンプルな考え方が非常に大事だ』ということである。

【北海道苫小牧市】福祉トイレカー(とまレット)について

加西市もトイレカーを 1 台導入することになったのだが、苫小牧市のトイレカーの導入理由は、障がい者用多目的トイレの不足からである。もちろん災害時に他市の避難所に出動されたこともあるが、活動範囲が拡大されている。機能的には、トイレ自体がバイオトイレを搭載し、汲み取り処理が不要で水を使用しないため冬場の凍結リスクが少ない。

そして、出動要綱がしっかり定められており、中には出動申請に対する決定書等の記載も入っている。

加西市においては、どのような使用範囲を定めるのか、市内への周知はどのようにするのかまだ未定である。トイレカーを導入されている自治体を参考に、まずは市民のために取り組んでい

ただきたい。

所感　　下江一将

【北海道北斗市 社会福祉法人「侑愛会」】障がい者支援の取り組みについて

北斗市の侑愛会が運営する各施設を視察し、全ての施設で共通していたのは、利用者の自立（本人の力）を最優先に大切にされている姿勢であった。現場には、職員の熱心でありながら、決してやりすぎない「自立＝本人の力＋支援」というバランスを重視したサ ポート（支援）が確立されていた。本人の想いに寄り添うためには、高度な専門性と「対話」を重視して本人の語りを聞く力が不可欠であることを改めて理解した。支援の具体的な形として、「見える化」や「わかる化」をベースとした環境があらかじめ用意されており、利用者が自発的に行動できるよう工夫されている。この細やかな心遣いと環境づくりは、実際に現場を訪れて初めて実感できる深いものであった。本市においても、こうした専門的な人材の確保が重要であり、利用者に寄り添い、その声を真摯に聞いて支援する体制をより一層充実させていくべきだと考える。

【北海道函館市】 スマホ市役所について

ノーコードツールを用いてデザインやオンライン手続きの質問設計をすべて職員が自ら作成されていることで、利用される方のニーズに素早く柔軟に対応されていることに感銘を受けた。

サービスを実装させながら定期的な市民アンケートによって、市民のニーズを常に把握しながら取り組まれている様子から「1 人ひとりに寄り添ったやさしさ」を追求されていることが伝わってきた。特に、赤ちゃんを抱えた状態でも片手で手続きが完結する UX の追求などは、真に市民目線の改革といえる。変化の早い時代において、市民ニーズを的確に把握し、そこに寄り添い、素早く柔軟な対応でサービスを提供する姿勢は本市も見習う必要がある。市民の利便性向上や職員の業務効率も良くなっている結果が出ており、他の課からは機能追加の依頼もあると伺った。

本市においてもノーコードでのシステムづくりと手続きのオンライン化の検討をお願いしていく。

【北海道苫小牧市】 福祉トイレカー（とまレット）について

苫小牧市のトイレカーは福祉目的であり、本市の災害対策用との目的の違いが明確な視察となった。福祉トイレカーは車椅子ユーザーの利便を最優先し、室内には十分なスペースが確保されている。昇降リフトは安全性が高く、補助者用の手すりも備わるなど細やかな配慮が行き届いていた。本市にも多目的トイレはあるが、スペース確保やリフトの詳細は再確認が必要である。

また、小型貨物車サイズを活かし、地域のお祭り等へ積極的に出動して市内外へ広く PR されている点も特徴的である。清掃を外部へ委託する運用体制も、イベントごとに対応する本市とは異なる形であった。異なる目的の車両を視察したことで、災害対策用としての見識が深まるとともに、利便性と機動力を両立させた運用の重要性を実感した。

本市においても、今回得た福祉の視点を今後の災害対策やイベント運用に活かしていく。

所感　　橋本真由美

北海道北斗市 社会福祉法人「侑愛会」　障がい者支援の取り組みについて

侑愛会は、障がい者支援、児童発達支援、教育、医療、地域生活支援を展開されている。どんな障がいを持たれていても、ご本人の思いを尊重するという理念、姿勢で一人一人を大切にされている。

その施設の一つである「おしま菌床きのこセンター」を見学させていただいた。このきのこセンターでは、一人一人に合った作業をアテンドし、お一人お一人が持たれる能力を発揮できる作業所であった。作業工程でのキノコの摘み取り時のサイズや選別基準を視覚的に分かりやすくし、利用者が迷わずに作業できる環境が整っていた。その結果、収穫サイズやパック詰めのクオリティがそろい、商品としての均等化を達成できている。障がいを抱えておられる方の、特性に合ったお仕事の提供により、障がいがある方が、出来ることを通し、暮らし、働き、そして楽しむという生活が出来るのだと感じた。

星が丘寮（6 寮）では、重度の障がいを持たれる方々の生活を 24 時間 365 日アセスメントし、暮らし全般を支えておられた。利用者の方々の、特性、コミュニケーション等を把握し、お一人お一人の特性や学習スタイルに応じ、情報を提供し、支援されており、見え方、感じ方、考え方を活かしその人らしい暮らしが、出来るように支援されている。

サポートすばるでも、お一人お一人に寄り添い、利用者の方と同じ方向から物事をとらえ支援をされていた。利用者さんの一人一人に合った暮らしの選択肢を増やすために、言葉だけのコミュニケーションではなく、絵を使ったり、カードにしたり、思いを伝える方法も工夫されていた。

多様な障がいのある方一人ひとりが、かけがえのない存在であることを改めて実感した。そのためには、障害のある方への支援を特定の年代だけで考えるのではなく、乳幼児期から高齢期まで切れ目のない支援を行ない、ライフステージに応じて必要な支援が途切れることのない体制づくりが重要である。

本市においても、赤ちゃんから高齢者までの一体的な支援を進め、一人ひとりに寄り添った福祉の実現につなげていく必要があると考える。

函館市　　スマホ市役所について

以前は予約や申請は、電話や来庁と言う方法だったが、公式ＬＩＮＥを利用し、子育て支援としてオンライン化による申請や、予約、サポート機能を導入された。片手で赤ちゃんを抱き、片手で申請や予約が完結出来るのは、子育て中にとっては負担軽減となり、ありがたい取り組みだ。親子情報を事前に登録しておけば、次は自動入力となり、片手のタップ操作で手続きが完了する。これこそ、やさしい行政サービスである。親子情報を事前に登録しておけば、同時送信とかではなく本当に必要な情報が配信される。ひとりひとりに寄り添った情報を得られるのは、子育て中の立場として、とても魅力だと思う。

苫小牧市　　福祉トイレカー（とまレット）について

とまレットは、小型貨物車程度のサイズで、小回りが利き場所を選ばす運用が出来る。安全面でも車いす用のリフトは、介助者、当事者、車いすが乗っても安定感のある使用である。凄く魅力だったのは、バイオトイレを搭載されており、本市は汲み取り仕様であるが、おが屑であれば、３か月ほどいれっぱなしで使用できるとの事。おが屑は、使用後分解され肥料になる。環境にも優しい取り組みである。そして実際に 2018 年の９月の北海道胆振東部地震発生時には厚真町に出動した。市民の方々の反応としては、介助者が共に入れる事や、大人用のおむつ交換ベッドがある為、障がいを持たれる方も、外出のハードルが下がったのではないかと思う。本市も災害時のみの利用ではなく、福祉トイレカーとしても利用することが、市民の方に喜ばれるのではないかと思う。

所感　　森田博美

北斗市 社会福祉法人「侑愛会」　障がい者支援の取り組みについて

発達の違いがある子ども達、その子達の障がいを支える構想を立て、乳幼児・学童期・ 成人期・高齢期の支援に取り組み、医療と相談機関を合わせて 約 80 事業所を開設されている内の３ヶ所を視察 。どの施設の人達も元気がみなぎっていた 。作業所は大規模 、入所者達はいきいきしている。老いも若きもてきぱきと行動していてすばらしい。施設運営や作業内容の工夫からくるものと感動した。

毎日を暮らす入所施設にも様々な工夫がされている 。障がいを乗り越える工夫 、それらを入所者全員が活用できる工夫。説明を受けるほど、それらの凄さを実感した。

私自身の認識 、障がい者施設や福祉施設等の認識を改める機会をいただいたと思う。みんなが安心して暮らす、豊かに暮らすことの意味を再考させてもらった 。こんな立派な取り組みを実現されている現場を知らなかったことに恥じ入るばかり。

函館市　　スマホ市役所について

7 項目の受信設定に加えて、知りたい情報を会話形式で調べることができる点。子育て支援の申請、予約 、サポート機能 、片手のタップ操作だけで機能し手続きが完了する点など学ぶ必要性を実感する。高齢者へのサポート対応も親切・丁寧で 充実している。初期導入費用と維持管理コストも私の予想よりも安価である。

市民の利便性向上や職員の業務効率の成果は数字上で大きな結果が出ている。特定の担当者に依存しないように職員研修を重ねて、行政組織全体でスキルアップを図る計画も参考になった。

苫小牧市　　福祉トイレカー（とまレット）について

障がい者団体からの要望で導入 。障がい者等の活動範囲の拡大に期待して、トイレカー、多目的トイレの設置、仮設多目的トイレのレンタルを開始したとのこと。約 10 年前に、衛生面や環境面等に優れているバイオトイレを搭載したトイレカーは、237 回の出動数で約 7 千人の利用実績がある 。

大規模イベント時は利用者が増えて順番待ちが出るため、現地の状況に合わせて並んでいる方への声かけ等が必要とのこと。介助者が同時に入室できる広さがあることや大人用おむつ交換ベッドの設置による安心感から高い評価もあるとのこと。

加西市が導入するトイレカー、災害時に活用すべきではあるが、福祉活動や文化的活動や観光活動への対応等も検討すべきだと実感した 。

（添付資料）

①視察行程表　　**清流会・かさいを育む会　行政視察　行程表**

7月6日（月）

08：00 発　　加西市役所　自家用車にて
11：05 発　　伊丹空港　　ANA745（函館空港行）
12：40 着　　函館空港
　　昼食
13：20 発　　道南ハイヤー
14：00 着　　おしま菌床きのこセンター

> １４：００～１６：００　北斗市 社会福祉法人「侑愛会」視察
> ・障がい者支援の取り組みについて

14：30 発　　道南ハイヤー
15：00 着　　夢・星の丘寮・サポートすばる 視察

16：00 発　　道南ハイヤー
17：00 着　　函館駅　　ホテルマイステイズ函館駅前　宿泊 0138-27-2700

7月7日（火）

09：30　　ホテル発
10：00 着　　函館市役所

> １０：００～１１：３０　　函館市役所視察
> ・スマホ市役所について

12：00　　函館市内　　昼食等
15：01 発　　函館駅　　北斗 15 号（札幌行）
17：59 着　　苫小牧駅　　KOKO HOTEL 苫小牧　宿泊 0144-33-0333

7月8日（水）

09：30　　ホテル発
10：00 着　　苫小牧市役所

> １０：００～１１：３０　　苫小牧市視察
> ・福祉トイレカー(とまレット）について

12：06 発　　苫小牧駅　JR 千歳線（千歳行）
12：27 着　　南千歳駅
12：33 発　　南千歳駅　JR 快速エアポート 76 号（新千歳空港行）
12：37 着　　新千歳空港
　　昼食
15：55 発　　新千歳空港　　JAL2010　（伊丹空港行）
17：45 着　　伊丹空港
19：15 着　　加西市役所

②研修資料

③写真





北斗市





函館市





苫小牧市